

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
7) ジクワット液	・ジクワット・ジプロ マイド 30%	(大豆, 小豆, エンドウ対象) ・落葉促進 ・子実乾燥効果	・小豆 実, 継 ・大豆 (エンペイン) 中 止 ・エンドウ 中 止	収穫7日前に15~30cc/a を散布する。	・処理後のさやの成熟 過程と霜害との関係 を検討する。

C. そ の 他

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) SL-51	(成分未公開)	・イネおよびコ ムギの発芽に 及ぼす影響。 ・一時貯留時に おける水稻生 粒に及ぼす影 響。 ・球根ベゴニア の落花防止。 ・巨峰の脱粒防 止。	継		・初年目。

昭和50年度水稻作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和50年度水稻作関係除草剤の試験成績検討会は、昭和50年12月17日より3日間、東京農林年金会館（東京）において開催された。ここにその結果の概要について紹介する。

1. 供試除草剤の動向

本年度委託総点数は863点で、これは前年

度の1,012点に較べて約15%の減である。内容的には従来の成苗移植栽培を主体とした試験から前年度に引き続き稚苗移植栽培対象の試験が増加し、成苗での試験92点に対し稚苗移植栽培では771点が試験された。全国の水稻栽培面積のうち、稚苗機械移植栽培の占める割合が61%と報告され、また、一部の県では80

％以上普及したとの報に接している現状では当然といえる。

つぎに、ここ数年問題となっている多年生雑草防除法の問題がある。それはウリカワ、オモダカ、ミズガヤツリ、ホタルイ、ヘラオモダカ、クログワイなどである。北海道、東北北部ではホタルイ、ヘラオモダカ、東北地域ではホタルイ、ミズガヤツリ、関東以西ではウリカワ、ミズガヤツリ防除が重要課題となっている。昭和49年11月の調査による水田多年生雑草の発生面積合計は210万haとなり、昭和47年調査の1.9倍である。BAS-3510混合剤による同時防除の検討と共に、田植前後の土壌処理剤との組み合わせ処理によって1年生雑草と多年生雑草のタイミングを合わせて、より防除効率を高める体系処理法も多くの茎葉兼土壌処理剤で検討された。

注目される新剤としては、本年は第2次適用性試験をはんの数点しか実施しなかったが、作用性、第1次適用性試験の段階で極めて高い効果が得られ、水稲にも安全性が高く期待されるものがあったことは今後の楽しみである。

そのほか、パイプダスター利用による農薬散布に関しては昭和50年度当初、防除機メーカー12社による散布均一性につき農業機械化研究所においてテストした結果、全製品がC.Vは17～45％の範囲におさまる結果となった。このように、散布機材および方法の向上により均一散布の可能性が確認された。連絡試験は7剤につき全国9場所で計28点について実施し、当会議で検討した。

作用特性試験は、稚苗移植栽培を対象に新規19薬剤について早期移植栽培条件、普通期移植栽培条件下でそれぞれ試験し、さらに土壌中の移動性、残効性程度についても試験を実施し

た。作用性試験、変動要因試験は作用性が22点、変動要因が9点あり、これらは国立研究機関を中心に実施された。また、本年度石垣試験地で行った基礎試験供試薬剤は27薬剤であった。

第一次適用性試験（大地域適用性試験）は成苗移植栽培対象として1薬剤、稚苗移植栽培対象として18薬剤につき全国7場所で試験したが、これについては既に植調第9巻第7号において報告済みである。

2. 試験結果の概要

本年度供試された薬剤の判定結果は、第1表の通りである。本年度供試薬剤総数122点のうち、95点が「実」、「実および継」の判定が得られた。これは78％に該当する。

昭和50年度水稲作関係除草剤試験供試薬剤名

A. 基礎試験（沖縄石垣島試験地）

NK-049粒、S-28粒、S-28・U-67粒、SW-751粒、X-52・SK-23（7+7％）粒、X-52・SK-23（7+5％）粒、NK-50乳、CH-753水和、B-275水和、B-289水和、NTN-90KM粒、HW-163粒、HW-163B粒、HW-163BM粒、HW-163M粒、HW-884粒、HW-884B粒、HW-884BM粒、HW-884M粒、NP-27A-1粒、NP-27A-3粒、NP-31A粒、NP-38A粒、MCP・BAS-Na(A)粒、MCP・BAS-Na(B)粒、MCP・BAS-3510粒

B. 作用特性試験

モリネートMT-101粒、MT-121粒、MT-122乳、B-3015・MK粒、MSW-1粒、S-28・SM粒、NH-710粒、HOK-05

・X粒, SW-751粒, SK-80・K粒, NTN-90KM粒, NTN-90粒, NK-50粒, NP-27A粒, HW-T₁粒, HW-T₂粒, HW-T₃粒, KH-195粒:

C. 作用性, 変動要因試験

CG-102粒, TH-63粒, B-3015・MK粒, MK-129水和, SW-751粒, Mon-358液, UEL-26水和, MCP・BAS粒, SL-501水和, SL-502水和, AM粒, CG-102C粒, TH-63粒, MT-B-3015⑩粒, BAS-3510粒, SW-751粒.

D. 第二次適用性試験

I 成苗移植栽培

I-1 土壤混和処理

G-315⑩乳, RH-2915乳, RH-2915粒.

I-2 移植前後処理

MC-79粒.

I-3 移植後土壌処理

KH-191粒.

I-4 移植後茎葉兼土壌処理

B-3015・S・MCPB粒.

I-5 適用時期拡大

モリネートSM粒, BAS-3510液, (X-52→)S-28・AM粒, HOK-0.5粒(25%), HOK-0.6粒, NK-049・S粒, SMX-1粒, MCP・BAS(Na)粒, 2.4-PA・BAS(Na)粒, 2.4-PA・BAS水和.

II 稚苗移植栽培

II-1 土壤混和処理

B-3015・K乳, G-315乳(大型機械散布), G-315⑩乳, RH-2915乳, RH-2915粒, B-3015乳, SL-041液.

II-2 移植前後処理

MT-120粒, MT-220粒, B-3015・

MK粒, MC-79粒(前処理のみ), MC-79粒(前後処理), S-28粒, X-52(7%)・SK-23(7%)粒, X-52(7%)・SK-23(5%)粒, X-52水和, NK-049・S粒, ブタクロール粒(前後処理), ブタクロール粒(前処理のみ), ブタクロール乳, B-3015・K粒, MTS-1粒, BP-10粒,

II-3 移植後土壌処理

モリネート・K・PHC粒, モリネート・K粒, MT-B-3015⑩, MT-B-3015・MCPB粒, MC-79粒, SW-751粒, SW-752粒, B-3015粒, KH-191粒, BP-11粒.

II-4 移植後茎葉兼土壌処理

CG-102粒, TH-63粒(ホタルイ対象), TH-63粒(ウリカワ対象), TH-63粒(漏水田における水管理等の検討), TH-63粒(効果・被害の年次変動), モリネートSM粒, モリネート粒, モリネートKM粒, N-301粒, S-28・SM粒, S-28・S粒, HOK-0.5粒(1.5%), SMX粒, TH-67粒, TH-63(Na)粒, B-3015・S・BAS粒, B-3015・BAS・MCPB粒, B-3015・S・MCPB粒, HW-T₁粒, MON-358粒, TH-63・C粒, CG-102・C粒, KH-195粒, シメトリン・MCPB粒(25%), シメトリン・MCPB粒(3.5%),

II-5 適用時期拡大

CG-102粒(ホタルイ対象), CG-102粒(ミズガヤツリ対象), CG-102粒, TH-63粒, モリネートSM粒, モリネートKM粒, MCP・BAS液, MCP・BAS水和, S-28・S粒, BAS-3510粒, BAS-3510液, (X-52→)AM粒, (X-52→)S-28・AM粒, HOK-0.5粒(2.5%), HOK-0.5粒(1.5%)(寒地対象), HOK-0.5粒(15%)

(ヘラオモダカ対象), HOK-05粒(1.5%)
(ウリカワ, セリ対象), HOK-06粒, SW-
752粒, NK-049粒, SMX粒, SMX(Na)
粒, シメトリン・MCPB 2.5粒, シメトリン・M
CPB 3.5粒, TH-67粒, TH-63(Na)粒,
B-3015・S・MCPB粒, KH-191粒,
モリネートM粒, MCP・BAS液, BAS-3510
水和.

Ⅲ-1 湛水直播

MK-129水和, B-3015・K粒.

Ⅲ-2 乾田直播

CG-102粒, モリネートSM粒, G-315

⑩乳, S-28乳, BAS-3510液, NTN-
80・K水和, MON-39液, B-3015・P
粒.

Ⅳ 畦 畔

MON-39液, パラコート+起泡剤, SL-
501水和, SL-502水和.

Ⅴ 耕 起 前

MON-39液.

Ⅵ 休 耕 田

VEL-26水和.

第1表 昭和50年度水稻作関係除草剤実用化判定表

	実	実および継	継	継?	中 止
I-1 成苗 土壌混和 処理		G-315⑩乳, RH- 2915乳, RH-2915 粒.			
I-2 移植前後 土壌処理		MC-79粒.			
I-3 移植後 土壌処理		KH-191粒.			
I-4 茎葉兼土 壌処理		B-3015・S・MCPB 粒.			
I-5 適用時期 拡 大	モリネートSM粒, NK-049S粒.	BAS-3510(Na)液, S-28AM粒, HOK- 05A粒, HOK-06 粒, SMX粒, MCP ・BAS⑩(Na)粒, 2,4-PA・BAS⑩ (Na)粒, BAS-3510 水和, 2,4-PA・BAS 水和.			
Ⅱ-1 土壌混和 処 理		B-3015・K乳, G- 315(大型機械散布)	RH-2915乳, RH- 2915粒, SL-041液.		

	実	実 お よ び 継	継	継 ？	中 止
(つづき)		乳, G-315㊦乳, B-3015乳.			
II-2 移植前後 土壌処理	NK-049・S粒, プ タクロール粒, B- 3015・K粒.	B-3015・MK粒, MC -79粒, S-28粒, X -52・SK-23粒, X -52・SK-23㊦粒, X-52水和, プタクロ ール粒, MTS-1粒.	MT-120粒, MT- 220粒, プタクロール 乳, BP-10粒.		
II-3 移植後 土壌処理		モリネート・K・PH C粒, モリネート・K 粒, MT-B-3015 ㊦粒, MT-B-3015・ MCPB粒, MC-79 粒, B-3015粒, モ リネートM粒.	SW-751粒, SW- 752粒, KH-191粒, BP-11粒.		
II-4 茎葉兼土 壌処理	CG-102粒, モリネ ートKM粒, B-3015 ・S・BAS粒.	TH-63粒, モリネ ートSM粒, モリネート 粒, N-301粒, S- 28・S粒, SMX粒, TH-67粒, TH-63 (Na)粒, B-3015・ BAS・MCPB粒, B-3015・S・MCPB 粒, TH-63C粒, CG -102C粒, KH-195 粒, シメトリン・MC PB35粒.	S-28SM粒, HOK -05B粒, HW-T, 粒, MON-358粒, シメトリンMCPB 25粒.		
II-5 適用時期 拡 大	MCP・BAS水和, HOK-05A粒, シメ トリンMCPB25粒.	CG-102粒, TH-63 粒, モリネートSM粒, モリネートKM粒, M CP・BAS液, S- 28S粒, BAS-3510 粒, BAS-3510水和, BAS-3510液, (X -52)→AM粒, (X- 52)→S-28AM粒, HOK-05B粒, HOK -06粒, SMX粒,	HOK-05B粒, SW- 752粒, NK-049粒, KH-191粒.		

	実	実および継	継	継 ?	中 止
(つづき)		SMX (Na) 粒 シメトリン MCPB 35 粒, TH-67 粒, TH-63 (Na) 粒, B-3015・S・MCPB 粒,			
III-1 湛水直播		B-3015・K 粒,	MK-129 水和,		
III-2 乾田直播		CG-102 粒, モリネート SM 粒, BAS-3510 液, MON-39 液, B-3015 P 粒,	G-315㊥乳, S-28 乳, NTN-80 K 水和,		
IV 畦 畔		MON-39 液, バラコート + 起泡剤液,	SL-501 水和, SL-502 水和,		
V 耕 起 前		MON-39 液,			
VI 休 耕 田			VEL-26 水和,		

第 2 表 昭和 50 年度水稻作関係実用化除草剤使用基準一覧表

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
I I 成 苗 ・ 土 壌 混 和 処 理	G-315㊥ 乳	土 壌 混 和 全域の普通 期, 温暖地 東部の早期	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前直後 (-3~-1)	㊥ ml/a 30	砂壤土へ埴 土 (極端な 漏水田はさ ける),	1) 混和時の水深 3~5cm 2) 混和深 2~3cm 3) 吸着の悪い土壌 (砂 壤土, 腐植含量の少な い土壌) では水の動き の少ない場合は薬害の 発生の危険があるので 十分注意する, 4) 均一散布に留意する,
	RH-2915 乳	土 壌 混 和 暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ,	植代前 (-4)	㊥ ml/a 125	埴 土 (1.5cm/日 以下)	
	RH-2915 粒	土 壌 混 和 全域の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前 (-6~-3)	㊥ g/a 300	埴土へ埴土	

薬 剤 名		処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
	RH-2915 (つづき)		寒地, 寒冷 地, 温暖地 東部の普通 期,	一年生雑草, マ ツバイ,	荒代直前 (-6~-4)	⊕ g/a 300~ 400	(15cm/日 以下)	
I 1 2 成 苗 ・ 移 植 前 後	MC-79 粒	土	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ,	- 3 ~ + 3 (ノビエ] L ま で) ホタルイ : 発生 前 ~ 始期	⊕ g/a 300	砂礫土 ~ 埴 土 (2 cm / 日 以下)	
		壤	寒冷地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期,	一年生雑草, マ ツバイ,	ヘラオモダカ : 発生始			
I 3 成 苗 ・ 移 植 後 土 壌	KH-191粒	土 壌	寒冷地, 温 暖地の普通 期,	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ,	+ 4 ~ ノビエ 15 L ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ } 発 生 始	⊕ g/a 300~ 400	埴土 ~ 埴土 (2 cm / 日 以下)	処理後に発生するウリカ ワには劣る場合があるの で注意する。
I 4 成 苗 ・ 茎 葉 兼 土 壌	B-3015・ S・MCPB 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ,	+ 10 ~ ノビエ 3 L ホタルイ : 発生 始 ~ 2 L	⊕ g/a 300~ 400	埴土 ~ 埴土 (2 cm / 日 以下)	
			寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ, ヘラオモ ダカ,	ウリカワ : 発生 盛 ~ 5 L ヘラオモダカ : 発生始 ~ 4 L			
			温暖地東部 普通期, 早 期,	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ,	ミズガヤツリ : 発生始 ~ 3 L			
			温暖地西部 以西の普通 期,	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ,				
I 5 モ リ ネ ー ト S M 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ,	田植前後土壌処 理した場合 + 20 ~ + 30 (ノビエ 25 L まで) ホタルイ : 発生 始 ~ 5 L	⊕ g/a 300~ 400	砂礫土 ~ 埴 土 (2 cm / 日 以下)	シメトリン混合剤の使用 上の注意をまもる。	

薬 剤 名	処理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
I I 5	(つづき)			ヘラオモダカ： 発生始～4 L				
成 苗 適 用 時 期 拡 大	BAS-3510 (Na) 液	同	寒 地	一年生非イネ科, ホタルイ, ヘラ オモダカ,	一年生非イネ科 発生盛～揃期 ウリカワ	⊕ ml/a 40～ 80 但し, 寒 地, 寒冷 地は 60～80	全 土 壌 1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 落水茎葉散布する。 3) 散布はなるべく水稻 にかからないように注 意する。 4) 処理後の灌水は48～ 72時間経過後に行う。	
		上	寒冷地	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリカ ワ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ,	ミズガヤツリ 発生盛～増殖 初期 ホタルイ			
		温暖地東部 の普通期, 早期	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリカ ワ, ミズガヤツリ,	ヘラオモダカ 発生盛～揃期				
		温暖地西部 以西の普通 期,	一年生非イネ科, ウリカワ, ミズ ガヤツリ,					
	S-28AM 粒	同	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ,	田植前後土壌処理 した場合 +15～+25 (ノビエ1.5Lまで) ウリカワ：発生 盛～5 L	⊕ g/a 300	砂壤土～埴 土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 前処理剤としては1 年生雑草, マツバイ, ウリカワに有効な薬剤 を使用すること。
		上	寒冷地, 温 暖地東部の 普通期,	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ,				
	HOK-05A 粒	同	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ヘラオ モダカ,	田植前後土壌処理 した場合 +15～+25 (ノビエ2 Lま で, 但し, 寒地 は1.5 Lまで) ホタルイ } 発生 ウリカワ } 盛期 ヘラオモダカ： 発生始～4 L	⊕ g/a 300～ 400	砂壤土～埴 土 (3cm/日 以下)	前処理剤との組み合わせ で使用する。
		上	寒冷地, 温 暖地東部の 普通期, 早 期,	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ,				
	HOK-06 粒	同	寒地, 寒冷 地	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリカ ワ, ヘラオモダカ,	田植前後土壌処理 した場合 +25～+30	⊕ g/a 300～ 400	埴土～埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) セリは水没状態で効 果が高い。
		上	温暖地東部 の普通期, 早期,	一年生非イネ科, ホタルイ, ウリ カワ,	一年生非イネ科： 生育期 ホタルイ：発生 盛～3 L			

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
I 1 5 つづき		温暖地西部 以西の普通 期。	一年生非イネ科	ウリカワ：発生 盛～4L ミズガヤツリ： 発生揃～56L セリ：増殖初期 まで			
NK-049S 粒	土 壌	寒冷地以西 の普通期	一年生雑草，マ ツバイ。	－4～＋5 (ノビエ1Lまで)	Ⓔ g/a 300～ 400	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	抑草期間が短いので組み 合わせ処理の前処理剤と して使用する。
SMX粒	茎 葉 兼 土 壌	寒冷地 温暖地東部 の普通期 温暖地西部 の普通期	一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ミズガヤツリ。 一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ， ウリカワ，ミズ ガヤツリ。 一年生雑草，マ ツバイ，ホタル イ，ウリカワ。	田植前後土壌処 理した場合 ＋15～＋25 (ノビエ2Lまで) ホタルイ：発生 盛～3L ウリカワ：発生 盛～揃期	Ⓔ g/a 300	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。
MCP-BAS ・①(Na) 粒	同 上	寒 地 寒冷地 温暖地の普 通期 暖地の普通 期	一年生非イネ科， ホタルイ，ヘラ オモダカ。 一年生非イネ科， ホタルイ，ウリカ ワ，ミズガヤツリ。 一年生非イネ科， ホタルイ，ウリカ ワ，ミズガヤツリ。 一年生非イネ科， ウリカワ。	＋15～ (但し，寒地は 30～40日，寒冷 地は25～35日と する) 一年生非イネ科： 生育期 ホタルイ：4L まで ウリカワ：増殖 開始前 ヘラオモダカ： 6Lまで ミズガヤツリ： 6Lまで	Ⓔ g/a 300～ 400	砂壤土～埴 土 (15cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 落水若しくは1～2 cmの浅水で使用する。 3) 処理後の灌水は48～ 72時間経過後行う。 4) 低温時の使用は葉害 発生の危険性があるの で使用はさしひかえる。
2,4-PA・ BAS① (Na) 粒	同 上	温暖地の普 通期	一年生非イネ科， ホタルイ，ウリ カワ。	＋15～ 一年生非イネ科： 生育期	Ⓔ g/a 300～ 400	砂壤土～埴 土 (15cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 落水若しくは1～2

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
I 1 5	つづき	暖地の普通 期	一年生非イネ科, ウリカワ,	ホタルイ:発生 盛へ揃期 ウリカワ:発生 盛へ揃期			cmの浅水で使用する. 3) 処理後の灌水は48〜 72時間経過後行う.	
	BAS-3510 水和	茎 葉	暖地の普通 期	コウキヤガラ,	+ 30 前後	⊕ g/a 40〜60	全 土 壌	
	2,4-PA・ BAS 水和	茎 葉	暖地の普通 期	コウキヤガラ,	+ 30 前後	⊕ g/a 50〜60	全 土 壌	
II 1 1 稚 苗 ・ 土 壌 混 和	B-3015-K 乳	土 壌	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前直後 (-6〜-1)	⊕ ml/a 50〜 75	砂壤土〜埴 土 (2cm/日 以下)	1) 混和時の水深は3〜 5cm. 2) 混和深2〜3cm.
		混 和	温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 および暖地 の早期,					
	G-315乳 (大型機) 機散布	同 上	全域の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前直後 (-6〜-1)	⊕ ml/a 50 但し, 寒 地は 50〜67	砂壤土〜埴 土 (2cm/日 以下)	G-315乳剤に準ずる.
	G-315・⊕ 乳	同 上	寒地, 寒冷 地, 温暖地 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前直後 (-3〜-1)	⊕ ml/a 30	砂壤土〜埴 土 (2cm/日 以下)	1) 混和時の水深3〜5cm, 2) 混和深2〜3cm, 3) 吸着の悪い土壌(砂 壤土, 腐植含量の少な い土壌)では水の動き の少ない場合は薬害の 発生の危険があるので 十分注意する. 4) 寒地で腐植含量の多 い地帯での使用は効果 が安定しないのでさけ る.
	B-3015乳	同 上	寒冷地, 温 暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ,	植代直前直後 (-3〜-1)	⊕ ml/a 60〜 120	砂壤土〜埴 土 (2cm/日 以下)	1) 混和時の水深3〜5cm, 2) 混和深2〜3cm.

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 1	つづき	暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ.		ml/a		
		暖地の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ミズガ ヤツリ.		60~ 80		
II 2	B-3015・ MK粒	土 壤	寒冷地北部	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツリ. ホタルイ ミズガヤツリ 発生始	-4~+5 (ノビエ1Lまで) 300	㊥ g/a 300	壤土~埴土 (2cm/日 以下)
稚 苗 ・ 移 植 前 後	MC-79粒	同	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ. (ノビエ1Lまで)	-7~-4 (ノビエ1Lまで) 300~	㊥ g/a 300~	砂壤土~埴 土
		上	寒冷地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期.	一年生雑草, マ ツバイ. ホタルイ ヘラオモダカ 発生前~始期	-3~+8 (ノビエ1Lまで) 400	㊥ g/a 400	(2cm/日 以下)
		上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ.			
	S-28粒	同 上	温暖地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ. (ノビエ1Lまで)	+0~+6 (ノビエ1Lまで) 300	㊥ g/a 300	壤土~埴土 (1cm/日 以下)
	X-52・SK -23粒	同	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ. (ノビエ1Lまで)	-3, +3~+7 (ノビエ1Lまで) 300	㊥ g/a 300	壤土~埴土 (2cm/日 以下)
		上	寒冷地, 温 暖地東部の 普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ. ホタルイ: 発生 前~始期			
		上	温暖地西部, 暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ.			
	X-52・SK -23㊤粒	同 上	温暖地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ. (ノビエ1Lまで)	-3, +3~+6 (ノビエ1Lまで) 300	㊥ g/a 300	壤土~埴土 (2cm/日 以下)
	X-52水和	同 上	温暖地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ. (±0)	移植当日 (±0) 30	㊥ g/a 30	砂壤土~埴 土 (2cm/日 以下)
							1) 移植前後に滴下処理 する. 2) 水稻移植直後の場合

薬 剤 名	処理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 1 2	つづき						は水稻の茎葉にかからないようにする。
NK-049・ S粒	土 壌	寒冷地以西 の普通期, 温暖地東部 および暖地 の早期	一年生雑草, マ ツバイ,	-3~-1 +2~+3	⊕ g/a 300~ 400	砂壤土~埴 土 (2cm/日 以下)	抑草期間が短いので組み 合わせ処理の前処理剤と して使用する。
ブタクロー ル粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ	-8~+3 ホタルイ:発生 前~2L ヘラオモダカ: 発生前~始	⊕ g/a 300~ 200	埴土~ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 浅植条件での使用は さける。 2) 200g/a 散布は多口 ホース散布とする。
		寒冷地以西 の普通期, 暖地の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツリ,	+3 ホタルイ:発生 前~2L ミズガヤツリ: 発生前~3L			
B-3015 K 粒	同 上	暖地の普通 期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツリ,	-3~+0 ホタルイ:発生 前 ミズガヤツリ	⊕ g/a 300	砂壤土~埴 土 (2cm/日 以下)	
MTS-1粒	同 上	寒地~温暖 地の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ,	-3~+7 (ノビエ1Lまで)	⊕ g/a 300~ 400	埴土~埴土 (2cm/日 以下)	
		暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ,	ホタルイ:発生 始			
II 3 稚 苗 ・ 移 植 後 土 壌	モリネット K・PHC粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ	⊕ g/a 300~ 400	砂壤土~埴 土 (2cm/日 以下)	PHCが適用できる地帯 で使用する。
		寒冷地, 温 暖地東部の 普通期, 早 期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツ リ,	+5~+10 (ノビエ1Lまで) ホタルイ:発生 始~3L ヘラオモダカ: 発生始~2L ミズガヤツリ: 発生始~2L			
	モリネット K粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ	⊕ g/a 300~ 400	砂壤土~埴 土 (2cm/日 以下)	コナギ多発田では早目 (2Lまで)に使用する。

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 1 3	つづき		寒冷地以西 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ミズガヤツリ, ヘラオモダカ: 発生始〜3L ミズガヤツリ: 発生始〜3L			
MT-B- 3015 ⑥ 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ヘラオモダカ。	+2〜ノビエ20L (但し, 寒地は +5〜ノビエ20L)	⊕ g/a 300〜 400	砂壌土〜埴 土 (2cm/日 以下)	
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ヘラオモダカ, ミズガヤツリ。	ホタルイ ヘラオモダカ ウリカワ ミズガヤツリ 発生始〜2L			
		温暖地, 暖 地の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ。				
		温暖地東部 および暖地 の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ。				
MT-B- 3015・ MCPB 粒	同 上	温暖地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ。	+5〜ノビエ20L ホタルイ: 発生 始〜2L	⊕ g/a 300〜 400	埴土〜埴土 (1cm/日 以下)	1) 低温時の使用は薬害 発生危険性があるの で使用はさしひかえる。
		温暖地西部 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ。	ウリカワ: 発生 始〜4L			
B-3015 粒	同 上	寒冷地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期	一年生雑草, マ ツバイ。	-4〜+10 (ノビエ15Lまで)	⊕ g/a 300〜 400	砂壌土〜埴 土 (極端な溺 水田は除く)	
		寒冷地, 暖 地の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ。	+3〜ノビエ15L ホタルイ: 発生始			
モリネート M 粒	同 上	暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ。	+0〜ノビエ15L ホタルイ: 発生始	⊕ g/a 300	埴土〜埴土 (1cm/日 以下)	
II 1 4	CG-102 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ。 +8〜ノビエ25L [但し, 寒地は +7〜20L, 寒 冷地は +10〜25L]	⊕ g/a 300	埴土〜埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる。

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 4 稚 苗 ・ 茎 葉 兼 土 壌	つづき	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ヘラオ モダカ.	ヘラオモダカ: 発生始〜2L ホタルイ:発生 始〜2L			
		温暖地以西 の普通期, 暖地の早期	一年生雑草, マ ツバイ.				
	TH-63粒	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ.	+8〜ノビエ25L 〔但し, 寒地は +7〜20L, 寒冷地は +10〜25L 温暖地西部以 西は +8〜30Lまで〕 ホタルイ:始〜 5L ヘラオモダカ: 始〜4L ウリカワ:盛〜 45L ミズガヤツリ: 盛〜46L	㊥ g/a 300	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる.
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダ カ, ウリカワ, ミズガヤツリ.				
		温暖地以西 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.				
モリネート SM粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ.	+15〜35L (但し, 寒地は) 25L ホタルイ:始〜5L ウリカワ:盛〜6L ヘラオモダカ: 始〜4L ミズガヤツリ: 始〜4L ヒメホタルイ: 10cm以内	㊥ g/a 300 〜400	砂壤土〜 埴土 (2cm/日 以下)	1) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる. 2) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はさしひかえる.
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ.				
		温暖地東部 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ, ヒメホタ ルイ.				
		温暖地西部 の普通期お よび暖地の 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズ ガヤツリ.				
モリネート 粒	同 上	寒冷地	ノビエ, ホタル イ.	+5〜ノビエ2L ホタルイ:発生 始〜2L	㊥ g/a 400 〜600	砂壤土〜 埴土 (1cm/日 以下)	

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適 用 土 壤	使 用 上 の 注 意
II 4 つづき	モリネート KM粒	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ.	+10~ノビエ30L 〔但し, 寒冷地 は25Lまで〕 ホタルイ: 始~ 3L ウリカワ: 始~ 4L ミズガヤツリ: 始~3L	㊥ g/a 300 ~ 400	(寒冷地): 壤土~埴土 (2cm/日 以下) (温暖地以西): 砂壌土~ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はさしひかえる.
		温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.				
		暖地の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ, ミズガヤツリ.				
	N-301粒	同 寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ヘラオモダカ.	+10~ノビエ25L 〔但し, 寒地は +15~ノビエ20L, 寒冷地は +15~ノビエ25L, 暖地は +5~ノビエ25L〕 ヘラオモダカ: 発 生始~2Lまで ホタルイ: 始~ 3L	㊥ g/a 300	壤土~埴土 (2cm/日 以下)	1) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はさしひかえる.
		寒冷地以西 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ.				
	S-28・S 粒	同上	温暖地の普 通期	一年生雑草, マ ツバイ.	+10~ノビエ20L ㊥ g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤の使用 上の注意をまもる.
	SMX粒	同上	温暖地の普 通期, 温暖 地東部の早 期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ, ミズガヤツ リ. ウリカワ: 発生 盛~5L ミズガヤツリ: 発生盛~4L	+10~ノビエ20L ㊥ g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤の使用 上の注意をまもる.
		同上	温暖地の普 通期, 温暖 地東部の早 期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ, ミズガヤツ リ. ウリカワ: 発生 盛~4L ヘラオモダカ: 発生盛~4L ミズガヤツリ: 発生盛~5L	+10~ノビエ25L ㊥ g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる.
	TH-67粒	同上	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ, ヘラオモダ カ, ミズガヤツリ.	+10~ノビエ25L ㊥ g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる.
		同上	温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ, ミズガヤツ リ.			
	TH-63 (Na) 粒	同上	温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.	+8~ノビエ25L ㊥ g/a 300	壤土~埴土 (2cm/日 以下)	1) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる. 2) 落水~浅水処理で効
		同上	温暖地以西 の普通期, 温暖地東部 の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ, ミズガヤツリ.			

薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
II 1 4	つづき			ミズガヤツリ： 発生盛～5L			果が高い。	
つづき	B-3015・ S・BAS 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地 一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ， ウリカワ，ヘラオ モダカ，ミズガヤ ツリ，ウリカワ。	+8～ノビエ25L 〔但し，寒地は〕 +7～20L ホタルイ：発生 盛～3L ウリカワ：発生 盛～3L ヘラオモダカ： 発生盛～4L ミズガヤツリ： 発生盛～4L	⊕ g/a 300 ～400	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤の使用 上の注意をまもる。	
		寒冷地～温 暖地の普通 期，温暖地 東部の早期	一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ， ウリカワ，ヘラオ モダカ，ミズガヤ ツリ。					
	B-3015・ BAS・ MCPB 粒	同 上	温暖地東部 の普通期 温暖地西部 の普通期 暖地の普通 期	一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ。 一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ， ウリカワ，ミズガ ヤツリ。 一年生雑草，マ ツバイ，ウリカワ。	+7～ノビエ25L ホタルイ：発生 始～3L ウリカワ：発生 始～3L ミズガヤツリ： 発生始～3L	⊕ g/a 300 ～400	砂壤土～ 埴土 (15cm/日 以下)	
	B-3015・S・ MCPB 粒	同 上	寒 地 一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ， ヘラオモダカ。 寒冷地，温 暖地東部の 普通期 一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ， ウリカワ，ヘラオ モダカ，ミズガヤ ツリ。	+15～ノビエ30L 〔但し，寒地は〕 25Lまで ホタルイ：発生 始～4L ヘラオモダカ： 発生始～4L ミズガヤツリ： 発生始～4L ウリカワ：発生 始～4L	⊕ g/a 300 ～400	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	1) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。 2) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はさしひかえる。	
	TH-63C 粒	同 上	寒 地 一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ， ヘラオモダカ。 寒冷地 一年生雑草，マ ツバイ，ホタルイ， ヘラオモダカ，ウ リカワ，ミズガ ヤツリ。 温暖地以西 一年生雑草，マ	+8～ノビエ25L 〔但し，寒地は〕 +7～20L， 寒冷地は +10～25L， 温暖地西部以 西は +8～30Lまで ホタルイ：始～ 5L ウリカワ：盛～ 45L	⊕ g/a 300	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる。	

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 4 TH-63 C つづき		の普通期	ツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズ ガヤツリ。	ヘラオモダカ： 始～4 L ミズガヤツリ： 盛～46 L			
CG-102 C 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒地、寒冷 地 温暖地以西 の普通期	一年生雑草、マ ツバイ、ヘラオ モダカ。 一年生雑草、マ ツバイ。	+8～ノビエ25L 〔但し、寒地は +7～20L、 寒冷地は +10～25L〕 ヘラオモダカ： 発生始～2 L	⊕ g/a 300	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	シメトリン混合剤と同様 の使用上の注意をまもる。
KH-195 粒	同 上	温暖地東部 の普通期、 早期 温暖地西部 の普通期	一年生雑草、マ ツバイ、ウリカ ワ。 一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ。	+10～ノビエ20L ホタルイ：発生 始～3 L ウリカワ：3～ 4 L	⊕ g/a 300 ～400	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	低温時の使用は薬害発生 の危険性があるので使用 はさしひかえる。
シメトリン・ MCPB(35) 粒	同 上	寒 地	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ。	+15～ノビエ15L ホタルイ：発生 始～2 L ヘラオモダカ： 発生始～2 L	⊕ g/a 300	壤土～埴土 (2cm/日 以下)	1) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。 2) 低温時の使用は薬害 発生危険性があるので 使用はさしひかえる。
II 5 稚 苗 ・ 適 用 時 期 拡 大 CG-102粒	同 上	寒地、寒冷 地 温暖地東部 の普通期、 早期	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ。 一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ミズガヤツリ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 〔ノビエ25Lまで 但し、寒地は 20Lまで〕 ホタルイ：発生 始～2 L ヘラオモダカ： 発生始～2 L ミズガヤツリ： 発生始～2 L	⊕ g/a 300 ～400	砂壤土～ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせで使用する。 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる。 3) ホタルイ、ミズガヤ ツリに対してはそれら に有効な前処理剤を使 用する。
TH-63 粒	同 上	寒 地	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ヘラオ モダカ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25	⊕ g/a 300 ～400	砂壤土～ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせで使用する。 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 1 5	TH-63 つづき	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオ モダカ, ミズガヤ ツリ.	〔ノビエ25Lまで 但し, 寒地は 20Lまで〕 ホタルイ: 発生 盛〜5L ウリカワ: 発生 盛〜5L ヘラオモダカ: 発生始〜4L ミズガヤツリ: 発生盛〜6L			まもる.
		温暖地の普 通期 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.				
		暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.				
モリネート SM粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	田植前後土壌処 理した場合 +20〜+30	⊕ g/a 300 〜 400	砂壤土〜 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する. 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる. 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる.
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオ モダカ, ミズガヤ ツリ.	〔ノビエ35Lまで 但し, 寒地は 25Lまで〕 ホタルイ: 発生 始〜5L ウリカワ: 発生 始〜4L ヘラオモダカ: 発生始〜4L オモダカ: 発生 始〜5L ヒメホタルイ: 10cm以下			
		温暖地東部 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ, ヒメホタ ルイ.				
		温暖地西部 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.				
		暖地の早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.				
モリネート KM粒	同 上	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, オモダ カ, ミズガヤツリ.	田植前後土壌処 理した場合 +18〜+25 (ノビエ30Lまで)	⊕ g/a 300 〜 400	砂壤土〜 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する. 2) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる. 3) 暖地早期は4月中旬 以降の移植のものに限 る.
		温暖地東部 の普通期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.	ホタルイ: 発生 始〜3L ウリカワ: 発生 始〜4L			

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II 15 (時)	モリネート KM つづき	温暖地西部 の普通期	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ。	ミズガヤツリ： 発生始～3L			
		暖地の普通 期	一年生雑草、マ ツバイ、ホタル イ、ウリカワ。				
		暖地の早期	一年生雑草、マ ツバイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ。				
MCP・ BAS 液	茎 葉 (落 水 散 布)	温暖地以西 の普通期	一年生非イネ科、 ホタルイ、ウリ カワ、ヘラオモ ダカ、ミズガヤ ツリ、コウキヤ ガラ。	MCP散布時期 に準ずる 〔但し、暖地は +15～+26〕 ホタルイ：発生 揃～4L ウリカワ：塊茎 形成前 ヘラオモダカ： 発生揃～5L ミズガヤツリ： 発生揃～8L コウキヤガラ： +30～+40	⊕ ml/a 35～ 50	全 土 壤	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 水稲にはなるべくか からないように散布す る。 3) 入水は処理後 48～ 72 時間経過後行う。
MCP・ BAS 水和	同 上	寒地、温暖 地東部の普 通期	一年生非イネ科、 ホタルイ、ウリ カワ、ヘラオモ ダカ、ミズガヤ ツリ。	MCP処理時期 に準ずる。 一年生非イネ科： 生育期 ホタルイ：発生 揃～4L ウリカワ：塊茎 形成前 ヘラオモダカ： 発生揃～5L ミズガヤツリ： 発生揃～8L	⊕ g/a 67～ 100	砂壤土～ 埴土 (15cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) 灌水散布、浅水散布 または落水散布でも可。
		温暖地東部 の普通期	一年生非イネ科、 ウリカワ、ミズ ガヤツリ。				
S-28・S粒	茎 葉 兼 土 壌	寒冷地、温 暖地の普通 期	一年生雑草、マ ツバイ。	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25 (ノビエ20Lまで)	⊕ g/a 300 ～400	埴土～埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。

薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II-5 (つぎ)	BAS-3510 粒	茎(浅水若しくは落水散布) 全域の普通期、温暖地東部の早期	一年生非イネ科、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ。	一年生非イネ科：生育期 ホタルイ } 発生盛へ増殖初期 ウリカワ } ヘラオモダカ } ミズガヤツリ }	⊕ g/a 300 ～ 600	砂壌土～埴土 (15cm/日以下)	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) 処理後の灌水は48～72時間経過後行う。
	BAS-3510 水和	茎葉(落水散布) 寒冷地以西の普通期、温暖地東部の早期	一年生非イネ科、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、コウキヤガラ。	一年生非イネ科：生育期 ホタルイ } 発生盛へ増殖初期 ウリカワ } ヘラオモダカ } ミズガヤツリ } コウキヤガラ： +30 前後	⊕ g/a 40～ 80	全 土 壌	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) 散布は水稻になるべくかからないようにする。 3) 処理後の灌水は48～72時間経過後に行う。
	BAS-3510 液	茎葉(落水散布) 寒冷地以西の普通期、温暖地東部の早期	一年生非イネ科、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ。	一年生非イネ科：生育期 ホタルイ } 発生盛へ増殖初期 ウリカワ } ミズガヤツリ }	⊕ ml/a 40～ 80	全 土 壌	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) 散布は水稻になるべくかからないようにする。 3) 処理後の灌水は48～72時間経過後行う。
	(X-52)→ AM粒	茎葉兼土壌 温暖地以西の普通期、温暖地西部および暖地の早期	一年生広葉雑草、ウリカワ。	田植前後土壌処理した場合 +15～ウリカワ 4.5 L	⊕ g/a 300 ～ 400	埴土～埴土 (15cm/日以下) [温暖地東部の普通期では砂壌土を含む]	1) ウリカワ多発田を対象とする。 2) ウリカワにも有効な前処理剤との組み合わせで使用する。
	(X-52)→ S-28・AM 粒	同上 寒地、寒冷地	一年生雑草、マツバイ、ヘラオモダカ。	田植前後土壌処理した場合 +20～+25 (ノビエ15Lまで) ヘラオモダカ： 発生始～2L	⊕ g/a 300	埴土～埴土 (2cm/日以下)	1) 前処理剤と組み合わせで使用する。 2) 低温時の使用は薬害の危険性があるので使用はひかえる。
	HOK-05A 粒	同上 寒 地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ。	田植前後土壌処理した場合 +20～+25	⊕ g/a 300	埴土～埴土 (2cm/日以下)	1) 前処理剤と組み合わせで使用する。 2) 低温時の使用は薬害

薬 剤 名	処理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
II-5 (きつ)	HOK-05A つづき			(ノビエ15Lまで) ホタルイ ヘラオモダカ 発生始～2L			の危険性があるので使用はひかえる。
HOK-05 B粒	茎 葉 兼 土 壌	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ。	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25	⊕ g/a 300 ～ 400	埤土～埤土 (2cm/日 以下) 砂 埤 土 (1cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。 3) 低温時の使用は薬害 の危険性があるので使 用はひかえる。
		温暖地東部 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ, ヘラオモダカ。	[ノビエ20Lまで 但し, 暖地普 通期は +16～+25]			
		温暖地西部 以西の普通 期, 暖地の 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカ ワ。	ホタルイ: 発生 始～2L ヘラオモダカ: 発生始～5L ウリカワ: 発生 始～5L			
HOK-06 粒	同 上	寒冷地	一年生非イネ科 雑草, ホタルイ, オモダカ。	+30～+35 一年生非イネ科: 生育期	⊕ g/a 300 ～ 400	砂埤土～ 埤土 (2cm/日 以下)	前処理剤との組み合わせ で使用する。
		温暖地東部 の普通期, 早期	一年生非イネ科 雑草, ウリカワ。	ホタルイ: 発生 揃～4L ウリカワ: 発生 盛～6L オモダカ: 発生 盛～6L			
SMX粒	同 上	寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 (ノビエ2Lまで)	⊕ g/a 300	砂埤土～ 埤土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる。
		温暖地の普 通期	一年生雑草, マ ツバイ, ウリカワ, ミズガヤツリ。	ホタルイ: 発生 盛～3L ウリカワ: 発生 盛～5L ミズガヤツリ: 発生盛～5L			
シメトリン MCPB (25)粒	同 上	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ。	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25 (ノビエ15Lまで)	⊕ g/a 300	埤土～埤土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
Ⅱ 5 (つづき)	シメトリン MCPB(25) つづき			ホタルイ ヘラオモダカ 発生始～2L			3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる。	
	シメトリン MCPB(35) 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地 寒冷地	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ。 一年生雑草、マ ツバイ、ウリカワ。 〔ノビエ2Lまで 但し、寒地は 15Lまで〕 ホタルイ：発生 始～2L ウリカワ：発生 始～2L ヘラオモダカ： 発生始～2L	田植前後土壌処 理した場合 +20～+25 〔ノビエ2Lまで 但し、寒地は 15Lまで〕 ホタルイ：発生 始～2L ウリカワ：発生 始～2L ヘラオモダカ： 発生始～2L	⊕ g/a 300	砂壌土～ 埴土 (2cm/日 以下) 但し、寒 地は砂壌 土を除く	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる。 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる。
	TH-67 粒	同 上	寒 地 寒冷地 温暖地東部 の普通期、 早期 温暖地西部 以西の普通 期 暖地の普通 期	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ。 一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ヘラオモダカ、ウ リカワ、ミズガヤ ツリ。 一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズガ ヤツリ。 一年生雑草、マ ツバイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ。 一年生雑草、マ ツバイ、ウリカワ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 ノビエ25Lまで 但し、寒地は 20Lまで ホタルイ：発生 盛～5L ウリカワ：発生 盛～5L ヘラオモダカ： 発生始～4L ミズガヤツリ： 発生盛～5L	⊕ g/a 300 ～400	砂壌土～ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる。 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる。
	TH-63 (Na) 粒	同 上	寒 地 寒冷地	一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ヘラオ モダカ。 一年生雑草、マ ツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ヘラオ モダカ、ミズガヤ ツリ。	田植前後土壌処 理した場合 +15～+25 ノビエ25Lまで 但し、寒地は 20Lまで ホタルイ：発生 盛～5L ウリカワ：発生 盛～5L	⊕ g/a 300 ～400	砂壌土～ 埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する。 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる。

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
II 5 (つづき)	TH-63 (Na) つづき	温暖地の普通 期, 早期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.	ヘラオモダカ: 発生始〜2L ミズガヤツリ: 発生盛〜6L				
		暖地の普通 期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタル イ, ウリカワ.					
B-3015・ S・MCPB 粒	茎 葉 兼 土 壌	寒 地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ヘラオモダカ.	田植前後土壌処 理した場合 +20〜+30	⊕ g/a 300 〜400	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)	1) 前処理剤との組み合 わせて使用する. 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる. 3) 低温時の使用は薬害 発生の危険性があるの で使用はひかえる.	
		寒冷地	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ヘラオ モダカ, ミズガヤ ツリ.	〔ノビエ30Lまで〕 但し, 寒地は 25Lまで ホタルイ: 発生 始〜4L ウリカワ: 発生 始〜4L				
		温暖地東部 の普通期	一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガ ヤツリ.	ヘラオモダカ: 発生始〜4L ミズガヤツリ: 発生始〜4L				
III 1 灌水直播	B-3015・ K粒	土 壌	温暖地以西	一年生雑草, マ ツバイ.	播種後7日〜15 日 〔イネ15L以降〕 〔ノビエ20Lまで〕	⊕ g/a 300 〜400	壤土〜埴土 (1cm/日 以下) 火山灰土壌 (3cm/日 以下)	1) 芽干し後に使用する. 2) コナギ多発田はさけ る. 3) 暖地は播種期6月上 旬〜中旬栽培に限る.
III 2 乾 田 直 播	CG-102粒	茎 葉 兼 土 壌	温暖地	一年生雑草, マ ツバイ.	入水後8日〜12 日 (ノビエ25Lまで)	⊕ g/a 300 〜400	砂壤土〜 埴土 (2cm/日 以下)	1) 水持ちの安定した後 に使用する. 2) シメトリン混合剤と 同様の使用上の注意を まもる.
	モリネート SM粒	同 上	温暖地以西	一年生雑草, マ ツバイ.	入水後7日〜15 日 (ノビエ35Lまで)	⊕ g/a 300 〜400	壤土〜埴土 (3cm/日 以下)	1) 水持ちの安定した後 に使用する. 2) シメトリン混合剤の 使用上の注意をまもる.
	BAS-3510 液	茎 葉	温暖地以西	ミズガヤツリ.	入水前 ミズガヤツリ発 生揃後	⊕ ml/a 40〜 60	全 土 壌	DCPA剤と7日以内の 近接散布はさける.

薬 剤 名	処 理 法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使 用 上 の 注 意	
Ⅲ 2 (つづき)	BAS-3510 つづき		寒冷地南部		入水後 ミズギャツリ 2～7L	60 $\frac{ml}{a}$ ～ 120	砂壤土～ 埴土 (15cm/日 以下)	
	MON-39 液	茎 葉	温暖地以西	一年生雑草	耕起前 30日～40日 〔雑草20～30cm 以下〕	⊕ $\frac{ml}{a}$ 25～ 50	全 土 壤	
	B-3015P	土 壤	温暖地西部 以西	一年生雑草	播種直後	⊕ $\frac{g}{a}$ 400 ～600	壤土～埴土	
Ⅳ 畦 畔	MON-39 液	茎 葉	全 域	全 草 種	雑草生育期	⊕ $\frac{ml}{a}$ 25～ 75	全 土 壤	1) 川面散布はさける。 2) 稲体にかからないよ うにする。 3) 流水による薬害のお それをなくする。 4) 年1回程度の使用に とどめる。
	バラコート + 起泡剤	茎 葉	寒冷地、温 暖地	全 草 種	雑草生育期	⊕ $\frac{ml}{a}$ 30	全 土 壤	1) 川面散布はさける。 2) 稲体にかからないよ うにする。 3) 流水による薬害のお それをなくする。 4) 散布水量5～10 $\frac{l}{a}$ とする。
V 耕 起 前	MON-39 液	茎 葉	寒冷地以西	一年生雑草	耕起前 20日～40日	⊕ $\frac{ml}{a}$ 25～ 75	全 土 壤	1) 稀釈水量はできるだ け少ない量で茎葉によ く付着するように散布 する。 2) 周辺の作物に飛散し ないように注意する。

年間購読料・送料の改訂について

昭和51年1月25日より、郵便料金が大幅に値上げされたため、昭和51年1月号より、下記の通り改訂させていただきましたので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

記

年間購読料(1～12号): 4,000円(送料も含む), 1部売: 250円+郵送料140円。